

## 夏休み経済教室 記録 福岡会場

### 8月4日（木）福岡会場（高校対象）

名古屋と違い、晴天 36 度を越える真夏日となったなかでのセミナーとなりました。会場は、「福岡交通センター」の 9 F にある会議室。福岡駅のすぐ近くで、交通至便な会場である。今回は初めての福岡での開催。地元の研究会の先生方や金融広報委員会のご支援などもあり、参加 70 名となり、盛況にスタートした。

#### 第一講義 榊原宏司先生担当



#### 第二講義 中川雅之先生担当



#### 第三講義 西村理先生担当



#### 第四講義 篠原総一先生担当



以上講義の内容は、名古屋とほぼ同一なので、省略する。名古屋の記録を参照していただきたい。

参加者の先生が、最後まで熱心に受講されていたことが印象的であった。質問は多くなかったが、かなり本質的な疑問も寄せられて、じっくり受講されていることが分かる内容であった。

## 8月5日（金）福岡2日目（中学対象）

前日と同じく、晴天の暑い日であったが、57名の先生が参加。

### 第一講義 野間敏克先生「中学新教科書で教える経済の仕組み」



内容は以下のとおり。

#### <イントロ>

中学での教育実習経験や出張授業の経験もある

中学教科書を読んだ印象は、「仕組みと働き」に重点を置いて、物語的なものが少なく、ばらばらに用語を暗記するような授業になってしまっているのではないかと。目次を見ても広すぎる、薄すぎる、つながりが理解できない

新指導要領を見て、変わった、最初に問題意識を持たせる、見方や考え方を身に付けさせる…対立と合意、効率と公正、契約などが目立った。そこでの印象は以下のとおり

- \* 効率と公正は対立概念ではない（経済学者としては異議がある）
  - \* 金融の強調 直接金融、間接金融
  - \* 政府の役割の強調がまだまだ残りすぎているのではないかと…市場に任せられない部分は政府にとという記述が強い、弱者救済は政府という記述が目出つが、ここは問題である生徒にとっては読んであまり面白くない、世の中のことがこれではわからない。
- 以下、各論として時間の許す限り8項目について語りたい。

#### 1 全体としてところがけたいこと5つ

- ①課題（悪いこと）を語る前に、良いことを教えたい。例：市場の役割
- ②二分法や決め付けた対立構図を止める 例：資本主義社会主義
- ③とはいえ、隠されがちな現実を直視したい 例：若者と高齢者
- ④教科書の話は身近であることを徹底させて欲しい
- ⑤いろいろな話の関係しているということを伝えて欲しい

例：企業—金融—社会保障、 歴史—経済—政治—法律—社会制度—科学技術

#### 2 市場と政府

経済学の基本的な見方

合理性の仮説、市場に任せる、市場の失敗、政府の失敗の四つ

混合経済の現実を踏まえること…市場か政府かということではない

市場を生かしつつ、どのように政府の制度を作るか、それをどう評価するか

市場原理主義者は経済学者ではない…市場と政府の中間のどこに政策の力点を置くのかが経済学者の一番の関心である

### 3 消費者と政府

身近な例から、消費生活（家計消費調査のデータは授業で使える）

買い物リスト…すぐに賢い消費者というのではなく、まずは、自分が非合理であることを自覚させることが大事では

消費の話と関連して貯蓄がでてくるが、ここで終わるのではなく、金融とつながることをぜひ協調したい

消費者と企業の関係…企業性悪説に近い、すぐに政府が登場ではなく、消費者の対抗を書く必要があるのではないか

現在の消費者は、情報劣位で保護すべき存在もあるわけではない…ネットでの優位になるヒトすらいる（但しデジタルデバイドの問題が深刻化）

消費生活と流通についても触れておきたい…流通の合理化がすすむ、逆に「買い物難民」の事例などもある→政府+NPO等の連携が必要となっている（経産省研究会資料あり）

### 4 企業と政府

企業の重要性に関する強調が、教科書では足りない

ものを作る役割を担っている

企業がしっかりしなければ雇用も促進できない

企業がお金を借りて使って、儲けてもらえなければ金融がうごかない

社会的存在であること、どんなステークホルダーがいるかを調べさせるなども重要

企業の数、企業の名前を調べさせるなど（数や名前を知っていることは授業をすすめるうえで教える側の自信になる）

独占・寡占は悪いことか…以前の発想は独占・寡占は悪（高価格・低生産）、しかし、シェアを占めていることは悪いか？…現代経済理論ではそうは考えていない

市場の状態がいろいろあることを知っておきたい…常に参入圧力がある市場（コンテスト市場）、参入規制がある市場（農業、医療）、国内で独占でも世界では競争  
教科書の記述と今は違っているんだよと説明したい

### 5 金融と政府

中学生での導入事例…お金を貸したことがあるか？借りたことがあるか？お金を借りられることはいいことだよ。

1000円貸すことができるヒト、1000円借りることができるヒト（地域によって使えるところ、使えないところがある、関西は大丈夫、東京はダメ）

知らない間にお金を貸しているんだよ（貯金、預金）

銀行の役割…信用を作ること（預金を作るのではなく、信用を作ることが大事）

3割くらいが無貯蓄（日銀調査）…貧困度と関係

みんなが助かることが金融ということをもまず教えたい

間接金融と直接金融…日本では銀行等の預貯金の45%が株式や債券を買っている  
保険会社も間接金融機関

株式＝直接金融ではない、間接金融の本質は資産変換をしている（加工業である）こと、  
直接金融は資産変換をしていない、預金者は間接的に融資している

市場型間接金融（派生型金融商品がそれ）もあるが深入りはしない

金融世界では、政府の役割が必ず入る…情報の非対称性が絡む（市場の失敗が起こる）

政府の役割があるが、政府の失敗もある

補足：重要だけれど中学生にむりかも？①利子の概念の理解（時間の価値の理解→将来を見据えて現在を考えること）、②貨幣の役割の理解（貨幣の存在理由やそれが生み出されるメカニズムなど）

## 6 労働問題

資本家と労働者の対立構造として捉える教科書が今でも多い

キャリア教育の導入として位置づけたらどうか

中学生への導入：なぜはたらくのか？どんな仕事につきたいのか

どの職業がどのくらいもうかるのか

経済循環のなかに労働が入っているのだということを強調したい

労働三権、労働条件の改善等に政府の役割が必要…情報の非対称性が介在する

特に新卒学生は企業に対して弱者

契約後でも労働者は弱者であることは事実

将来の働き方…日本の労働市場の現状を知っておくことも大事

最低賃金の問題もあるが時間の関係で省略

## 7 財政は時間の関係で省略された

このように、今の教科書の記述を経済学的にはどう読むか、何が足りないかを指摘して、講義を終了した。

## 第二講義 大倉先生担当講義（名古屋と内容はほぼ同じ）省略

## 第三講義 「ニュースと株価の動きで経済を学ぶボードゲーム教材(ブルサ)の実践」



東京証券取引所が開発したボード型の教材「ブルサ」を先生方の参加で体験しながら、内容の説明がされた。

この教材は、三つの会社の株価がニュースによってどう変動するかを考えさせながら、経済を学ばせるもの。経済の導入で使ってもよし、学習の最後に使って、まとめの確認に使

ってもよしの教材。

参加の先生方は、楽しくかつ真剣にゲームに参加しながら、教材としての有効性を確認していた。

#### 第四講義 シンポジウム「中学における経済の授業のすすめかた」

司会進行は、栗原久先生（信州大学）が担当され、二人の先生の実践発表、コメンテーターの大倉泰裕先生（前文科省教科調査官）の助言、その後の質疑で進められた。



##### ① 岩野先生（現和歌山大学、3月まで中間市の中学校に勤務）からの報告

「中学生が経済における公正について考える授業」

大変な中学校に18年間つとめていた。そこで構想した実践例である。

- ・ 経済における公正とは何か…全体の幸福を大きく、所得の平準化
- ・ 中学生と考える「貧困」…なぜ貧困を考えるか マクロ的な考え、人間らしく尊厳をもって生きるというミクロ的な考え方をプラスする視点
- ・ 効率と公正は両立するという視点で進める
- ・ 様々な貧困撲滅プログラムについて考え、意見交流をする→そのことで、自分の問題として考えるようにする
- ・ 「助けてといえない いま30代に何が」を事例とする。これは北九州市の39歳の男性が孤独死のケースである。
- ・ この本が生徒に学習価値があるかどうかは私自身も実証できないので疑問が残っている
- ・ この本のなかで孤独死したKさんの死で責任があるのは誰か？
- ・ ホームレスのIさんの「自分が悪い」という発言をどう考えるか？
- ・ 授業では、「社会的排除」という概念を使う
- ・ 「貧困撲滅プログラム」を立案、討論
- ・ 財源確保の問題、主権者意識（自分の問題として、捉えることができるか）
- ・ 場面：財政の学習のあと 6～7時間はかけて実践

##### ② 三枝先生（東京目黒区立中央中学）からの報告

- ・ 経済の授業が敬遠されがちな背景…教師が納得できないことは、生徒は納得できない
- ・ 生徒の立場からは、難しい、関心がない、教師に対して空気を読む
- ・ 概念をつかんで教える、実感的でよい、生徒のためになっている、生きるかてになる
- ・ 経済は難しいのではなく、人生のあらゆる場面で必要だということを実感させたい
- ・ 教えるには中心概念があることが必要…その一つが希少性と選択
- ・ シミュレーションを利用すると生徒の実感的な理解をつかませることができるのでは
- ・ 配布資料では、活動型授業の例をあげてある…講義だけの授業だけではだめ

- ・ 最初は授業が成り立たせることから、途中で生徒は義理で聞いているのではと思ったのが出発点
- ・ 誰もが責任ある意思決定を迫られる場面が必ずくる
- ・ シミュレーション型授業が広がらない理由…学習全体に見通しを持つことができるか（分解して、今やっているシミュレーションと学習指導要領との関係のマトリックスを作ることで見通しを持った。）
- ・ ワークショップ型討論が必要（例：無人島に漂着したらどうする？）
- ・ 教師の力量が問われる…活動型の授業のあとどうもってゆくのかの見通しが重要
- ・ 最初から教え込まない、我慢と工夫…何とかして教師がしゃべるのを少なくする
- ・ 生徒の見方や考え方を分析して、生徒の変容をみてゆく必要がある（テープを取る、VTRを取るなど）、生徒が変わった⇔教師が変わった、その往復があると見通しをもてるようになる。
- ・ 振り返りの授業を大切に…網羅的には授業はできないので、こぼれたものをフォローする、生徒が活動の中で出した言葉から入ってゆくことが大事では
- ・ 外部講師の活用について…政治の調べ、経済のしらべ、話し合い、外部講師の導入、大規模校だと難しいが、努力する価値はある
- ・ 事例①：無人島シミュレーション（歴史の導入でも使える）「住宅メーカーシミュレーション」のなかにある
- ・ 事例②：どんぐりマーケットゲーム（消費者教育支援センター）リスクとリターン、労働 もう一回やると進化してやる
- ・ 事例③：家計シミュレーションゲーム（金融広報中央委員会の冊子になる）ゲーム教材でもトレードオフにある…満足度がゲームのポイント
- ・ 事例④：金融教育
- ・ 事例⑤：街のTシャツ屋さん
- ・ 事例⑥：牛井屋さん
- ・ 事例⑦：住宅メーカー

### ③ 大倉先生のコメント

質問に答えて：言語活動は何かという質問に対して、ヒントとしては指導要領の解説にあることを指摘。

評価は？ 大きな政府、小さな政府についての事例は？正解はなし、分かりやすいかどうかなど、何をねらいとした授業なのかに基づいた授業であればよい

効率と公平：対立することはない、弱者切捨てではない

岩野授業に関して：具体的にどう授業があるかがないと判断できない。1時間授業やってみてから再度提案してもらえるとよいのでは。公正の意味は多様なので、それを一義的に入れたほうがよいように思う。

三枝実践に関して：これが教科書のどこに結びつくのということをさらに明確にして欲しい。と要望

### ④ シンポジストに対する質疑から

三枝実践について：時間がかかる実際に大丈夫？：一応はこなしている グループ作りは生活班、他のクラスも含めて中1のときから見通してやるのが大事

岩野実践について：着地点は？…着地点はない、社会を批判的に捉えられれば  
なぜ、センばかりが注目されるのか？…一番関心をもっているから

大倉先生に対して：新自由主義とそれ以外の視点が混在しているようだが？…指導要領は  
学問的文書ではないので、よいものがあれば、寄せ集めでよろしいのでは。逆によりと  
ころを積極的に教育では使ってゆきたい。

二日間、はじめての開催としては、参加者数、地域の先生方などの支援、また、参加者の  
評価の点でも、十分な実績となるセミナーであった。今後の継続の方法などを含めて、検討  
してゆく必要がある。

記録とコメント 新井明